



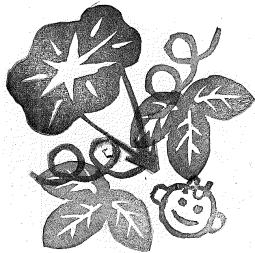
★ 短冊にねがいをこめて ★

地域協働活動推進員の中川さんが笹を用意してくださり、昼休みには七夕飾りを作る場を用意してくださいました。子どもたちは、家族の健康のこと、自分の夢など、短冊に思い思いの願いを書きました。(昇降口にあります)



一学期間、お子達の健康管理と本校教育活動への温かいご支援、子どもたちへの見守り活動など、本当にありがとうございました。

いよいよ子どもたちが楽しみにしている夏休みが始まります。家族と一緒に過ごせる時間や地域で過ごす時間が長くなり、友達との関係もより深くなる夏休み、充実した43日間を送ってほしいと思います。



二学期にも様々な学習や行事を計画しています。一学期の自分の成長を振り返り、「〇〇できるようになりたい。」「二学期は〇〇がしたい」など今から目標を立て、夏休みはその目標を実現するための準備期間として、毎日を大切に過ごしてください。特に、5、6年生は秋にサイクリングを実施するので、安全で楽しい活動となるようにぜひ練習をしておきましょう。(ヘルメットは必ずかぶり、安全な道で走行するように！)

では、9月2日、元気な笑顔で登校してくる皆さんを待っています！

◆夏休みを元気に過ごし、二学期も元気に登校できるよう、3つお願いします。

1. 健康で安全にすごす(命を大切に) ※「夏休みのくらし」をしっかり守ること。
2. めあてのある毎日をすごす(意欲をもつ)
ゆっくりするのとただただ過ごすのは違います。
今日は〇〇をした！と言える日々に。
3. 本をたくさん読む ※図書サロンをおおいに利用しましょう。
知識や蓄え、様々な考えに触れられるのが本のよさ
おもしろい、かなしいなど様々な感情に触れられるのも本のよさ
同じ本を読んだ人と意見を交わせるのも本のよさ



朽木東小ニュース、見てね！

正面玄関前の掲示板にある「朽木東小ニュース」をご覧になったことはありますか？ 本校の教育活動の様子を、写真と記事でお伝えするものですが、掲示できる枚数が9枚。なんと6年生の人数とピッタリなので、今年は任せることにしました。さすが今どきの子どもです。取材と作文、編集をタブレットで巧みにを行います。記事の内容は時々変わりますので、来校の際には、ぜひご覧ください。

9月の行事予定

2	月	始業式
3	火	給食開始 短縮日課 13:10 下校
5	木	読み聞かせ(2, 3年)、訪問貸出
6	金	委員会活動
12	木	読み聞かせ(4, 5年)
13	金	クラブ活動
19	木	読み聞かせ(1年)
26	木	読み聞かせ(2, 3年)、訪問貸出
27	金	市陸上記録会(6年)

★8月25日(日)PTA環境整備作業です。よろしくをお願いします。(予備日: 31日(土))

★夏季休業中の8月13日(火)~16日(金)は、学校閉庁となりますので、ご了承ください。あつてはいけませんが見守りなどの連絡がありましたら、市役所(25-8000)までご連絡ください。

電子版「教育しが」はこちらからご覧になれます。

教育や子育てに関わるタイムリーなお知らせやご案内を掲載しています。
印刷物版「教育しが」にはない情報やより詳しい情報をご覧いただけます。



先日、来訪者（先輩校長S氏）から、「学校目標の「なかよく たっしやで きばる子」って、〇〇先生が考えたのか？」と、校長室に掲示されている歴代校長の写真の中から、わりと最近の校長を指差しながら質問を受けました。「正面玄関前の卒業制作（右の写真）にもこの言葉が書かれてありますが、1973年卒業生と書いてありますよ。」と答えました。このことをきっかけに、古い卒業アルバムのページをめくり、校章の由来と「なかよく たっしやで きばる子」の始まりを探してみました。



昭和45年（1970年）度卒業アルバムに、校章の由来について次のように書かれていました。



江戸時代、朽木陣屋のあった市場には、明治初年領主 朽木之綱によって朽木藩学舎が設立され、朽木氏配下の子弟や近村の富豪の子弟の教育を行った。

そのほかにも、市場、岩瀬、野尻、平良などで、江戸時代からの寺子屋式の教育が続けられていた。

明治5年の学制頒布後、これらにかわって、7年から9年にかけて雲溪学校（野尻、市場、岩瀬、宮前坊）、麻生（麻生）、雲洞（雲洞谷）、安渡（柏、古川）、大井（村井、大野）、栃生（栃生）、富谷（地子原）、狭川（荒川）の各学校が設けられた。

その後、幾多の変遷を経て、朽木東小学校となり、本校、ろくろ、麻生、雲洞谷、柏、荒川、地子原、栃生、村井の各校舎にわかれて教育の営みが続けられた。

昭和30年に柏の分校が廃止された。

昭和35年に朽木住民の永年の夢であった東校統合の議が成立し、鉄筋校舎建築の工事が進められ、昭和36年11月3日竣工祝賀式が行われた。これにより、麻生、地子原、村井、大野、栃生、荒川の分校生がバスで本校へ通学するようになった。

昭和42年9月に、雲洞谷分校の友達も本校へ通学する。（これにより、分校はろくろ校舎だけになる）

校章は、鎌倉時代以降朽木氏の配下にあって、その影響を多分にうけて成長してきたこの村の文化の特性と、上記の学校成立の由来とを考慮して、朽木氏の家紋「四つ目」をつないで「小」（学校）とし、日本の花の代表ともいわれる桜の花をまわりにかたどって、「広くのびゆく朽木の子ども」を象徴しています。

このような古い歴史の中で育ってきた良い伝統を受けついだ学校に育ってきたことを誇りに持ち、広い世の中に雄々しくはばたいていきたいものです。

「仲よく 達者で きばる子」の文字は、昭和47年（1972年）度卒業アルバムで見つけました。この年が初めてなのかは分かりませんが、50年以上前から使われてきた言葉であることは明らかです。



先日、このことを朽木在住の先輩校長T氏に話す機会があったのですが、「仲よく 達者で きばる子」という言葉をスラスラと口にされたので驚いていると、T氏に「あたりまえやろ！」と一蹴されてしまいました。本校の「伝統」の重みを改めて感じ、校長としての責任を感じたできごとでした。